

来年度から無理やりスタートで大丈夫?! 小1からの「英語科」導入：4つの疑問



疑問1

市民の意見は？

伊勢崎市は、来年度から小学校の全学年で、週1時間の「英語科」を導入する計画をすすめています。しかし、低学年からの外国語導入には専門家にも異論があり、国はようやく5・6年生の「外国語学習」を必修化したところですが、でも、市は教育委員会さえ非公開の口頭説明

疑問2

生活科・総合の時間を削る？

1・2年生の生活科や3・4年生の総合学習の時間を削って生み出した時間を、「英語科」にあてます。削って大丈夫なのでしょうか？

疑問3

英語の先生は増やさない？

英語活動支援助手を6人増やせば、担任と英語の先生の2人体制で授業が出来るのではないか？

疑問4

成績は段階付？!

試験的に導入されている3つの小学校では、英語科も他教科と同じく「大変良い」「良い」「もう少し話をするので段階付けしています。楽しいゲームや会話をするので段階付けしているのでしょうか？

疑問5

5・6年生の外国語活動は文章による評価が「適当」としています。

党議員団は11月5日、「英語特区」認定で小1から英語科を実施して9年になる荒川区を視察しました。

荒川区では、英語科のための特別教室や電子黒板、英語教育アドバイザーの配置など充実した体制を整えていました。しかし、区内には英語塾が乱立。学年が上がるほど、英語力の「格差」が広がり、「英語嫌い」も増えています。

日本共産党市議団はこう考えます！

同意や体制が整わなければ延期を。責任の持てない「見切り発車」は、やめるべきです！

小学校1年生からの英語教育の是非については、専門家を含めた議論が必要です。

低年齢の外国語授業は、世界的には15人以下の少人数が常識です。

どうしても導入したいなら、英語の先生を増やし、少人数授業にすべきです。

他の質問項目

- ・中学生の問題行動への対応について
多発する中学生逮捕—教育的対応を柱に
- ・市営住宅施策について
補修要望への迅速な対応と空き室の活用促進



北島元雄
TEL・FAX 24-8410
携帯090-4065-2120
波志江町3626
経済市民常任委員
議員団長



長谷田公子
TEL・FAX 25-1130
携帯070-5564-6271
八幡町44
文教福祉常任委員
議会運営委員